

第46回北洋研究シンポジウム  
—新たな視点から津軽海峡の水産の未来を描く—

共催：一般社団法人水産海洋学会，北海道大学大学院水産学研究院  
後援：函館国際水産・海洋都市推進機構  
日時：2016年4月16日（土）9:30-17:00  
場所：函館市弁天町20番5号 函館市国際水産・海洋総合研究センター  
コンビーナー：綿貫 豊・笠井亮秀・高津哲也（北大院水産）・野呂恭成（青森県庁）・西田芳則（道  
函館水試）

挨拶：和田時夫（一般社団法人水産海洋学会長） 09:30-09:40  
趣旨説明：高津哲也（北大院水産） 09:40-09:50

- 【第一部】津軽海峡の環境と海洋生物 座長：笠井亮秀・綿貫 豊（北大院水産）
1. 基調講演：津軽海峡とその周辺海域の魚類・イカ類の生態と資源 09:50-10:20  
桜井泰憲（北大院水産・北大名誉教授）
  2. 物理海洋学からみた津軽海峡 10:20-10:45  
磯田 豊（北大院水産）  
—休憩— 10:45-11:00
  3. 海鳥にとっての津軽海峡 11:00-11:25  
綿貫 豊（北大院水産）
  4. 津軽海峡の沿岸漁業の現状 11:25-11:50  
高津哲也（北大院水産）他
  5. 北海道渡島半島沿岸での増養殖の現状と課題 11:50-12:15  
西田芳則（函館水試）他  
—昼食— 12:15-13:15
  6. 青森県陸奥湾のホタテガイ養殖の現状と課題 13:15-13:40  
吉田 達（青森水総研）他
- 【第二部】新たな視点から津軽海峡の沿岸漁業を考える  
座長：高津哲也（北大院水産）・西田芳則（函館水試）・野呂恭成（青森県庁）
7. 津軽海峡の海洋環境を即診断して発信：沿岸漁業への貢献 13:40-14:05  
渡邊修一（JAMSTEC・むつ研）
  8. 津軽海峡と周辺海域のスルメイカ漁場探査への予測モデルの利活用 14:05-14:30  
齊藤誠一（北大院水産・北極センター）他
  9. 省エネ・省コスト型イカ釣り漁業：集魚灯の改良に向けて 14:30-14:55  
松井 萌（北大院水産）他
  10. 津軽海峡周辺海域のミズダコ漁業：小型のタコをどのように保護する 14:55-15:20  
長野晃輔（北大院水産）他  
—休憩— 15:20-15:35
  11. 津軽海峡周辺海域におけるキアッコウの生態・資源と高付加価値化 15:35-16:00  
竹谷裕平（青森水総研）他
  12. イカ類の高鮮度保持技術の開発 16:00-16:25  
桜井泰憲（北大院水産）他
  13. イカ類の高鮮度化：生産から流通・消費 16:25-16:50  
田丸 修（水工研）他
- 【総合討論】 座長：綿貫 豊・笠井亮秀・高津哲也（北大院水産）・野呂恭成（青森県庁）  
16:50-17:30  
懇談会（同会場） 17:45-19:30

開催趣旨：津軽海峡は、縄文時代から人の交流や物資輸送の海路として、また、多様な海洋生物を利用した食料供給の場、ならびに沿岸の高台を利用した生活の場として活用されてきた。2016年3月には新幹線が開通し、北海道と本州の新たな人と物流の動きが始まる。この海峡は、多種多様な浮魚類とスルメイカ、海棲哺乳類や海鳥類の日本海と太平洋をつなぐ“海の交差点・回廊”として重要な役割を果たしている。また、陸奥湾を含む周辺海域では、ホタテ、コンブ類などの海中養殖に加えて、多種多様な沿岸漁業が行われている。しかし、近年の高水温化がこの海峡の海洋環境にも大きな影響を与え、ブリ、マダラが豊漁である反面、夏季の陸奥湾のホタテ大量斃死、ミズダコ、スケトウダラ、ホッケの漁獲減などが起きている。本シンポジウムは、津軽海峡の環境と海洋生物の生態と資源、漁業の現状を概観し、新たな視点から津軽海峡の持続的沿岸漁業の未来を描く。